

# **近藤宗平先生は我々に何を残したか**

## **(近藤先生と NPO 安全安心科学アカデミー)**

### **辻本 忠**

### **NPO 安全安心科学アカデミー**

#### **1. 近藤先生が常に我々に言っていた言葉**

近藤先生は常に「出る杭は打たれる。出過ぎた杭は打たれない」と言っていた。これは「正論であっても、仲間だけで、こそこそ言っていたのでは潰されてしまう。自分が正論だと信じるならばあらゆる場所で堂々と主張をしなさい」と言うことだと思う。

#### **2. 保物セミナーに対するご提言**

近藤宗平先生は保物セミナーに対して常に厳しいご意見を頂いていた。「保物セミナー2008」の時に頂いたご提言の1部を紹介する。「いい企画ではある、しかし、どのくらい突っ込んだ議論になるかは疑問である。「放射線を怖がりすぎの国民的風潮」の反映である点の認識が不十分のまま話が進展するだろうと思っている。

#### **3. 近藤先生と NPO 安全安心科学アカデミー**

NPO 安全安心科学アカデミーが核融合科学研究所より委託を受けた「低線量放射線の健康影響に関する調査」は近藤先生が中心になって纏めて下さった。この中に先生は「放射線はどんなに微量でも人体に危険という仮説が、科学的真実であると一般には誤解されています。この誤解が普及しているのは、この仮説を基本にして、放射線を取り締まる法律が現実に作られていることも、大きな理由になっています」と記載されている。

近藤先生は NPO 安全安心科学アカデミーのホームページに、数多くの考えを述べてこられた。あまり褒めない近藤先生であったが、近藤先生監修の「放射線の健康レベルと危険レベル」については、にっこりと笑い、小さな声で「おもしろい」と言って下さった。

近藤先生のウィキペディアでは「NPO 安全安心科学アカデミーによれば・・」という言葉が頻繁に出てくる。これは、近藤先生と NPO 安全安心科学アカデミーの関係の深さの現われと思う。

NPO 安全科学アカデミーも先生のご尽力に感謝し、「近藤先生の傘寿の会を平成 24 年 3 月 22 日に催した。非常にご満悦であった、次は白寿の会と思っていたが非常に残念である。

#### **4. 近藤先生が我々に残された言葉**

近藤先生が我々に残された言葉の一つに「米国保健物理学会の声明は放射線は年間 50mSv 以下は安全という主張。この主張に賛成する運動を国内で広げたい。この運動が広がれば日本人の放射線怖がりは治るだろう。」と述べておられた。我々はこの言葉の実現に尽力しなければならない。